

第5回今治市中心市街地創生デザイン会議 議事概要

日 時：令和6年10月8日（火）午後1時30分～午後3時00分

場 所：今治市みなと交流センター「はーぱりー」 1階 みなとホール

出席者：井口梓、大成経凡、羽鳥剛史、友田康貴、南條仁、原竜也、森昇平、越智智美、窪仁志、白石道子、青陽孝昭、松野義也、山本優子（第一号委員から第三号委員毎に五十音順、敬称略）

議事

『今治市中心市街地グランドデザイン』の策定に向けて

- （１）前回の振り返りと本日の検討事項
- （２）公共空間再編部会における検討内容
- （３）公共施設等再編部会における検討内容
- （４）今後のスケジュール

議事概要

【委員意見】

- ・ 複合庁舎の検討は候補地 B で進めていくのか。
⇒今治市として候補地 B が最適ではないかと判断している。一方で、候補地の敷地は市所有の河野美術館のほか、愛媛県東予地方局今治支局の土地でもあるため、引き続き関係者協議を進めていきたい。
- ・ 候補地別の比較検討結果をみると、候補地 B にも「△」の判定がある。総合的に判断すると候補地 Cの方がよいのではないかと。
⇒「△」の判定は、今治市の施設である河野美術館が長期間閉鎖されることによるものであり、市内部で解決できる問題と認識している。一方、候補地 B は「◎」の判定も3項目あり、中心市街地まちづくり計画の方針に最も合致していることから、候補地 B が最適であるという判断に至っている。
- ・ 愛媛県の反応はどのようなものか。
⇒まずは候補地 B が最適であるという市の考えを示し、その後、具体的な協議を進めていく予定である。
- ・ 候補地 B まで歩いてもらえるウォーカブルな空間にするためには、知恵だしが必要だと思った。一方で、人の動きやネウボラ拠点施設との連携、費用対効果等を踏まえるとシビックゾーンの中心にする必要はあると思う。
- ・ 商店街の魅力づくりに資するような動きはあるのか。
⇒商店街において、貸出可能な物件や物件の情報をとりまとめているところである。
⇒外から出店者を呼び込むには、グランドデザインで今治は変わろうとしているというメッセ

ージを発信していく必要があると感じた。

- ・ 河野美術館が長期閉館になる間の所蔵品をどうするかを検討する必要がある。複合施設にした後、今の庁舎はどうなるのか。

⇒候補地 B を最適地にした場合、最初に行うことは河野美術館の解体になるため、所蔵品を既存の美術館に分散して収蔵することを検討している。また、建物自体も丹下建築で価値があるため、河野美術館の代替機能を持たせた美術館として使っていきたいと考えている。

- ・ 海事都市交流委員会から市に対して要望があったが、連携や情報共有はされるのか。

⇒海事都市交流委員会からは、港周辺の賑わい創出と大型の国際展示場、MICE 建設の要望が出ている。具体的な整備の方向性などは、これから検討が進んでいくと考えている。

- ・ いずれの候補地においても、しっかりと将来像と戦略に沿うような公共施設の配置にしないといけないと思う。まちなかの滞留性が高まる方向と公共施設の配置が連動していくことがとても大事であるため、引き続き人の動きの分析をしていただくことが大事だと思う。

- ・ エリアプラットフォームについては、不動産と連動していくという案は大事になる。三津浜では、大屋さんと移住して家を借りたい人とをつなぐミツハマルという中間支援組織があり、プラットフォームの中に不動産を扱える機能があると前に進んでいくのではないかな。